

# コンファア室 農業教室「種」

農家の皆さんがまく種は、元の種から数えて3代目

農家の皆さんが毎年まく種は、一般には前年に採種ほ場で生産された種です。この採種ほ場にまく種は、その前年に原種ほ場で生産されています。さらに、この種はその前年に原原種ほ場で生産されています。3年間の長い年月をかけて、種はようやく作物としての本番を迎えるのです。このように段階的に種を生産していく主

安全で良質な北海道産。農産物づくりは、種づくりから始まります。安全で良質と評価の高い北海道の水稲、麦、豆などの農産物づくりは、優れた品種選びと安全で良質な種づくりから始まります。



な理由は、1粒の種から収穫できる充実した種の数が、粒の小さな小麦では約50粒、大きな大豆では約25粒と少ないためです。例えば北海道では、毎年約12万ヘクタールの畑で小麦が生産されていますが、この広大な畑にまく種の量は1万1千300トン。この種をつくるためには2千500ヘクタールの採種ほ場が必要です。こうした種づくりは、「優良品種」に限っても、水稲で18品種、小麦で7品種、大豆や小豆、いんげんなどの豆類で46品種。これだけの種類のものを過不

## 優良品種とは？

北海道の土壌や気象条件で生育がよく、良質な農産物となる品種は、「優良品種」として、農家の皆さんに広く使ってもらえるよう、北海道が認定しています。

## 安全で良質な種づくりにはプロの集団がいる

農家の皆さんは、自分の手で、自分の生産ほ場で使うための種づくりをすることもできます。ただし、同じ種を使い続けると、種で拡がる病気や害虫の発生、他の品種との交雑により、純粋な品種と特徴が異なってしまう危険があります。

このような危険を避けるため、種の多くは、専門的な技術をもつ農家や農業団体などによってつくられ、安全で良質な種が供給されています。基準をしっかりとクリアしたものを生産・販売する、「種づくりのプロ集団」が、北海道の農家の皆さんの下支えとなっています。

## 安全で良質な種を届けるための連携プレーと審査

安全で良質な種が農家の皆さんに届くまで、種の生産は「原原種」→「原種」→「採種」の各段階で、種づくりのプロが種を増やしながらバトンリレーしています。さらに、それぞれのほ場で生育中の作物や収穫後の生産物を北海道が審査しています。これらのプロの連携プレーと行政の審査により、種の安全性と品質が保証されています。

こうした行政の審査が行われるのは、「主要農産物種子法」という法律に基づき、稲や小麦、ビール原料となる大麦、大豆など。北海道の農産物の研究者や



種づくりのほ場を審査する様子

技術指導を行う職員などが、「これは農家の皆さんにすすめられる」という品種を優良品種と認定し、栽培しているほ場や出来上がった種子を審査しています。

また、北海道は、大豆以外の小豆やいんげんなども大産地。こうした豆類についても、安全で良質な種が農家の皆さんに届けられるよう、しっかりと、生産指導が行われています。

## おまけの種のおはなし

最後に、「原原種」の元になる種は、「育種家種子」と呼ばれます。稲、麦類、豆類は、国や道の

農業試験場のほか、一部民間の研究機関が新品種となる種を開発しており、このような「育種家種子」が「原原種」の種になります。開拓のはじまりから、140年以上の長い期間、北海道の厳しい自然条件の中でも、美味しく、栽培しやすい優れた品種、消費者の皆さんにも生産者の皆さんにも喜ばれる品種の開発を続けています。こうして開発された新品種は、北海道の大切な財産です。この大切な種を守るため、北海道立総合研究機構の中央農業試験場では、主要な農作物の「育種家種子」と「原原種」を低温貯蔵で備蓄しています。もしも、子どもたちから「お米や小麦、豆は誰がつくったの？」と聞かれたら、農作物をつくる農家、「種の元の種」をつくる育種家、そして、その種を守る人たちもいることをおまけにお話してください。

## 種づくりの基準は？

1 しっかり発芽すること

2 種で伝染する病害虫がないこと

3 種以外の異物や雑草が混じらないこと



# INFORMATION 北海道からのお知らせ

## 第3回「ディスカバー農山漁村の宝」のグランプリに選ばれました!

今年で3回目となる、内閣府・農林水産省が選定する「ディスカバー農山(む)漁村(ら)の宝」において、全国769件の応募の中から、(株)べつかい乳業興社(別海町)がみごとグランプリ特別賞(アクティブ賞)は(株)九神(きゅうじん)ファームめむる(寿室町)が選ばれました。(株)べつかい乳業興社は、地元の生乳を使った乳製品を製造・販売し、道内菓子店などのコラボ商品開発や海外輸出も手がけ、牧場経営者にチーズ作りを指導するなど、地産地消や産業の発展に寄与していることが高く評価されました。(株)九神ファームめむるは、農業や総菜加工、レストラン事業に取組み、身障者や高齢者を雇用するなどの地域貢献が認められました。また、全国優良30地区に選ばれた特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会(鶴居村)は、外国人観光客を含む長期滞在ツアーなどを通して、「2600人の小さな村で暮らす旅」を提供しています。

- 表彰結果について  
農水省 <http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kouryu/161202.html>
- 「ディスカバー農山漁村の宝」とは  
<http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html>

## 「エゾシカ出前講座」を実施しています。

エゾシカは、古来より北海道に棲み、アイヌの方々貴重な食材として親しまれてきましたが、明治の初めに大雪などの影響により、一時は絶滅寸前になりました。その後の保護政策により数が増え、ピーク時の平成22年度には推定66万頭となり、農林業被害が59億円に上ったことから、道では、捕獲を推進するとともに、食肉などへの有効活用を促進しています。こうしたエゾシカを取り巻く現状を知っていただくため、学校などへの「出前講座」を実施しています。講義のほか、試食やエゾシカの角・革を使ったストラップづくりなど、エゾシカに触れる講座となっております。農林業・地域振興や、食育、環境教育として、エゾシカとの共生について考えてみませんか。

お問い合わせ | 環境生活部環境局エゾシカ対策課有効活用グループ  
TEL 011-204-5988  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/est/>

## 次号の「コンファ秋号」を無料でお届けします。

次号(2017年秋号)は10月頃に発行する予定です。送付を希望される方は、右の綴じ込みハガキに必要事項を記入し、ご感想などを添えて投函してください。メールや電話、ハガキ、FAXでも受け付けていますので、「コンファ2017秋号希望」と明記の上、①郵便番号 ②住所③氏名 ④電話番号を記載し、下の宛先までお申し込みください。

〒060-8588 北海道農政部農政課政策調整グループ(住所の記入不要)  
TEL 011-231-4111(内線27-126) FAX 011-232-4126 Eメール [nosei.noki2@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:nosei.noki2@pref.hokkaido.lg.jp)



今号は、災害の影響がありながらも快く取材に応じていただいた「めむる農業小学校」の取組などを紹介しました。日常的な「食べる」経験に比べると、空の下での「収穫」経験は鮮明に記憶に残ります。その記憶が、子どもたちの未来につながっていくことを青年部の皆さんも期待しているでしょう。前号のconfaから、北海道と包括連携協定を締結している企業様のご協力をいただき、羽田空港や高速道路のサービスエリアにも設置できるように、より多くの方の目にふれるようになりました。たくさんの方々に支えられながら、confaが「都市と農村をつなぐ架け橋」になるよう、今後も努めてまいります。

この印刷物は環境に優しい植物性インキと古紙配合率100%再生紙を使用しています。本文には見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



## 2017ホッカイドウ競馬は4月に開幕!

「ホッカイドウ競馬」では、4月から11月までの火・水・木曜日を中心に、日高・門別競馬場でグランシャリオナイターを開催します! 門別競馬場と場外売券所Aiba(アイバ)では、ホッカイドウ競馬をはじめ、他地方競馬やJRAの勝馬投票券を発売していますので、ぜひご利用ください!

発売場所 | 門別競馬場、Aiba函館港町、Aiba登別芦園、Aiba苫小牧、Aiba静内、Aiba浦河、Aiba千歳、Aiba札幌中央、Aiba石狩、Aiba小樽、Aiba江別、ハロンス若見沢、Aiba浦川、旭川レーシングセンター、Aibaくしろ、Aiba中標津

出走馬の詳細やレース展望などについては、「ホッカイドウ競馬オフィシャルウェブサイト」から、「がんばれ!ホッカイドウ競馬」にリンクしてご覧ください。  
<http://www.hokkaidokeiba.net/>

お問い合わせ | 農政部競馬事業室 TEL 011-204-5377  
各総合振興局・振興局農務課  
または(一社)北海道軽種馬振興公社  
TEL 01456-2-2501まで

## 麦チェン!で北海道を元気に!!

北海道では、生産から流通、消費にいたる全ての関係者が一体となって、輸入小麦から道産小麦への利用転換を目指す「麦チェン!」に取り組んでいます。さらに「麦チェン!」を身近なものとしていただくため、道産小麦を使用した商品を積極的に販売・提供しているお店を登録する「麦チェンサポーター制度」を推進しています。平成28年12月現在で338のサポーター店が登録されているので、お近くのサポーター店でラーメン、うどん、パスタ、パン、お菓子など道産小麦を使用した商品をぜひ、味わってみてください。また、引き続きサポーター店の募集も行っていますので、道産小麦を使用しPRをしていただけるお店の方は、ぜひお申し込みください。安全・安心で美味しい北海道産小麦を使って、食べて、みんなを元気にする「麦チェン!」で北海道を元気にしましょう!

詳しくは「麦チェン」検索  
[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsk/mamemugi/mugi\\_change\\_top.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsk/mamemugi/mugi_change_top.htm)

お問い合わせ | 食品政策課 TEL 011-204-5427  
農産振興課 TEL 011-204-5434

## 歴代のグランプリ受賞者「純農Boy」の皆さん

### 2014年 第1回グランプリ

今村敏志さん(28歳) JA道央青年部 千歳支部

大学を卒業して家業を手伝ううちに農業の素晴らしさを実感。農家の大先輩に薦められてオーディションに出場し、初代純農Boyに。取材や撮影など初めての経験を通して「自分の成長を感じられる」と、後輩たちの活躍に期待。

### 2015年 第2回グランプリ

遠藤正人さん(36歳)  
JAきたみらい青年部 北見支部

東京で音楽家として活動したのちUターン。「農業は自分の努力が作物に結びつき、食べてもらうことで喜びを伝えられる最高の仕事」と、イベントなどでは得意のギター演奏も生かしながら、北海道農業のPRを継続中。

### 2016年 第3回グランプリ

中澤和晴さん(27歳) JAとまこまい広域青年部 穂別支部

ニュージーランドでの農業研修で視野を広げ、「北海道の農産物の良さや農村の素晴らしさを伝えたい」と応募。純農Boyになってからは、得意の英語も含めたコミュニケーション能力の高さを発揮し、農業の魅力を発信。

## 農業への熱い思いと個性をアピール! 2017年の「純農Boyグランプリ」決定!!

2016年12月1日、全道JA青年部大会で、純農Boyオーディションを開催。全道12地区から選ばれた代表者12名が、面接とパフォーマンスの審査に挑みました。グランプリに輝いたのは、JAうまい青年部蘭越支部の木村政義さん(26歳)。「農業を継ぐ前に、札幌でアルバイトをしながら消費地の生活を体験。今後は、特別栽培や有機JASの農産物を消費者に届けたいことが目標」という農業青年。4代目純農Boyとして、ポスターや雑誌、テレビ・ラジオ出演など、さまざまな活動を通じて北海道農業のPRに務めます。

詳しくはホームページをチェックしてください! JA道青協 <http://jayouth-hokkaido.jp>



ミッションは  
北海道農業のPR!  
「純農Boy」  
活躍中!

純農Boyとは?  
農業に対して純粋な思いを持ち、北海道農業の魅力を活かす若き農業者のこと。北海道農協青年部協議会(JA道青協)では、2013年から「純農Boyコンテスト」をスタート。審査基準は見た目ではなく、あくまで「個性」と「情熱」。全道に約7,200人いるJA青年部部員から選ばれるグランプリ受賞者は、1年間、北海道農業のPRに務める大役を担います。

料理が得意な木村さんは「キャベツの千切り」をステージで披露!







知っているようで  
知らない基本をチェック。

## 農家に教わる 家庭菜園

### 家庭菜園を始める時期は？

北海道の場合は、5月下旬～6月上旬をめやすに  
しましょう。地温(土の温度)がしっかり上がって  
から植えると元気な野菜が育ちます。

### 苗の選び方

- ◎下から元気な葉が出ているもの
- ◎茎が太くしっかりしているもの
- ◎葉が短く等間隔に出ているもの

### ポット苗の保存

箱に苗を並べ、上から土をかけすき間  
を埋めます。このまま水をやり、地温が  
上がったら畑に移します。



次号の『confa』2017年秋号は、平成29年10月頃刊行の予定です。

送付を希望しますか？  希望する  希望しない

次号の送付を希望される方は、必ずこのはがきをお送りください。

### アンケート

#### 1 本誌をどこでご覧になりましたか？

- 市町村の施設窓口
- 銀行・信金
- 病院・保健所
- 飲食・喫茶店
- 直接送付された
- 道の駅
- その他( )

#### 2 本誌の記事で、良かったと思うのはどれですか？(複数回答可)

- 特集1 めむろ農業小学校
- コンファ農業教室
- 特集2 音標小学校&関口牧場
- 純農BOY
- 特集3 アニマドレープロジェクト
- 北海道からのお知らせ
- たんぼぼ会の「かたこもち」
- 北の大地マルシェ
- ふれあいファームへいこう！

#### 3 本誌を読んでのご意見、ご感想、農業関係者へのメッセージなど お聞かせください。

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

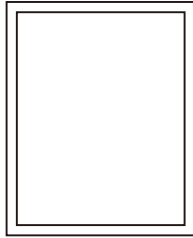
ご協力ありがとうございました。

お寄せいただいたご意見の中から次号(秋号)で、市町村名・年齢・性別を添え、  
数点紹介させていただく予定です。

郵便はがき

060-8788

531



差出有効期間  
平成29年  
3月31日まで  
(切手不要)

札幌市中央区北3条西6丁目  
北海道農政部 農政課 行

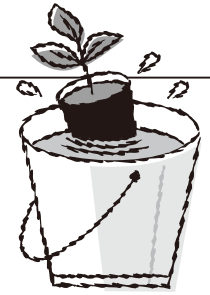


ご住所 〒		
お名前(フリガナ)		お電話
性別	年齢	職業
男・女	歳	

## 水やりのコツは?



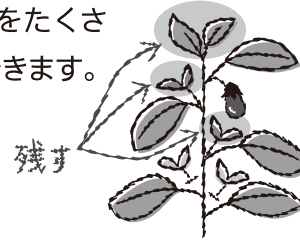
苗を畑に植える時は、しっかり水にひたしてから植えます。その後は、なるべく「水をあげすぎない」ことが大切。ひんぱんに水やりをすると、根が地中に伸びる力を弱めてしまうので気をつけましょう。



### ナス



主枝とわき芽から出た分枝2本を残す「3本仕立て」にすると、ナスをたくさん収穫できます。



### 大玉トマト



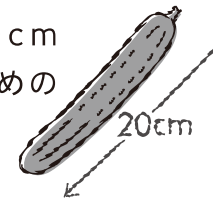
お盆の頃(8月中旬)になったら、上に伸びる芽を切ると、赤いトマトが長く楽しめます。



### キュウリ



大きく育ちすぎたものをそのままにしておくと、その後に出るキュウリの元気もなくなります。20cmをめやすに早めの収穫を。



### ダイコン



ベランダ菜園では、土や肥料の袋を利用すると、長く伸びるダイコンも育てることができます。



取材協力:花ときのこのほそがい 細貝陽子さん(春は野菜の苗も販売)  
TEL 011-831-3859 facebook「花ときのこのほそがい」

きりとり線

きりとり線